

オマール・アコスタ デュオ トーク&ミニライブ

うなばら
ラテン・フルートの大洋



クラシック、フラメンコ、ラテンアメリカの境界を超えて活動し、
日本でもなじみの深いプラシド・ドミンゴやヨーヨー・マたちと共演してきた
フルート奏者であるオマール・アコスタが、トーク&ミニライブを行います

演奏曲目 娯家1900 (タンゴ / アストル・ピアソラ) 首の差で (タンゴ / カルロス・ガルデル)
ナタリア (ワルツ / アントニオ・ラウロ) ラコンパルサ (ダンスン / エルネスト・レクオーナ)
パハリージョ (ホローポ / ベネズエラ伝統曲) リリー (メレンゲ / オマール・アコスタ) 他

2018年

11月3日(土)

16:00 開演 (15:30 開場、18:00 終演)

東京大学駒場 | キャンパス18号館ホール

入場無料 資料代1000円 先着順自由席 要事前申し込み

申し込み方法：8月4日より受付開始。ご氏名をご記入の上、

omaracosta.japan2018@gmail.com に、ご連絡ください。受付のお返事を差し上げます。

出演者：オマール・アコスタ (フルート)、セルヒオ・メネン (ギター)

司会・通訳：石橋純 (東京大学教養学部教授)

定員：200名 使用言語：スペイン語(日本語逐次通訳つき)

主催：東京大学教養学部地域文化研究学科ラテンアメリカコース

協力：東京大学駒場友の会

Omar Acosta Duo

南米・ベネズエラ出身で、現在はスペインを拠点として活動するオマール・アコスタは、欧州という異郷の地において、ラテンアメリカ音楽を外側から眺めてきました。そのため彼の作編曲には、ラテンアメリカ音楽のエッセンスを、初心者にもわかりやすく伝えるとともに、その奥深い味わいを損なうことなくリスナーの感性に届けることに心血が注がれています。

オマールは2017年より、セルヒオ・メネン(ギター)ならびカルロス・フランコ(パーカッション)とともに、「オマール・アコスタ・トリオ」を結成し、ラテンアメリカ各地の音楽を新アレンジで全世界の聴衆に訴求するワールド・ミュージックプロジェクトを始動しました。

今回は、タンゴやサルサ、ボサノヴァなど日本のリスナーにも馴染み深いラテンアメリカのスタンダードナンバーから、日本では演奏される機会が稀な故国ベネズエラの音楽まで、中南米文化の世界的広がりを体感させる曲目の演奏と、本人による楽曲解説をお楽しみいただきます。

オマール・アコスタ Omar Acosta : フルート

1964年ベネズエラ生まれ。17歳の若さでベネズエラ国立シモン・ボリバル交響楽団の首席フルート奏者に就任。以来、ベネズエラならびにラテンアメリカ各地の交響楽団で活躍する傍ら、ソロ奏者として数々のリサイタルを開く。1990年代には「オマール・アコスタ・アンサンブル」を率いて、ベネズエラ伝統音楽を現代的な感覚で再構成する都市器楽アンサンブル運動を主導。

2000年以降にスペインに移住し、ソリストとして活動を継続。2012年から16年にかけて、スペイン

国立舞踊団の音楽監督に就任。多くの自作曲と編曲を提供。同バレエ団とともに2度来日公演を果たしてしている。これまで、フルート独奏者として世界三大テノールとして知られたプラシド・ドミンゴや、日本でもなじみの深いチェロ奏者ヨーヨー・マほか、数々のクラシック音楽界の巨匠たちと共演してきた。



オマール・アコスタ(右)とセルヒオ・メネン(左)

セルヒオ・メネン Sergio Menem : ギター

1975年生まれ。アルゼンチン出身。コルドバ州立音楽院(アルゼンチン)でギターを学び、後に国立コルドバ大学で作曲を、米国カーネギー・メロン大学でチェロを習得。現在、スペインに在住。スペイン国立舞踊団のチェロ奏者として活動するほか、伴奏とソロのギタリストとして欧州を拠点に活動中。2017年よりオマール・アコスタ・トリオの一員として活動。

会場アクセス

京王井の頭線 駒場東大前駅(東大口)より徒歩5分

JR線渋谷駅、小田急線代々木八幡駅、千代田線代々木公園駅より徒歩18分

※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

omaracosta.japan2018@gmail.com (担当: 韓)

